

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 42	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 シクラメンの萎ちょう病対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 【背景】シクラメンの萎ちょう病は、各種対策を講じていることにより発生は減少しているが、依然として、防除が困難であり、特に販売後の発病は、シクラメンの購買意欲を著しく低下させる。 【内容】東北農研がハウレンソウで「転炉スラグ（ミネカル）による土壌pH矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術」を成果としている。ポット試験でも効果があることから、シクラメンでの利用を検討して欲しい。防除効果の検定は難しいと思われるため、当面、pH矯正によるシクラメンの生育への影響を検討していただきたい。 【対象地域及び規模】シクラメン40戸、約200,000鉢	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 農業技術センター	担当部所 生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可
試験研究課題名    (①、②、④の場合)	
対応の内容等 東北農研の報告では、ハウレンソウで転炉スラグ（ミネカル）を用いて土壌pHを矯正し、pH7.5以上にした場合に萎凋病の発生抑制効果があるとの結果が出ています。シクラメン栽培の土壌の好適なpHは6前後とされており、7.5以上で生育させるには、栽培体系の相当な見直しが必要になります。 萎凋病については適正な栽培環境を保って健全な生育を促すことや、薬剤による予防的な防除薬剤の実施による発生回避に努めるべきと考えます。 pHとシクラメン萎凋病発生程度の相関について新たな知見が得られた場合には、実施について再検討いたします。	
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
備考	